

# 定時制課程における コミュニケーションの有効性

～教科指導における学力変化と意識変化～



兵庫県立神戸工業高等学校  
菅 圭介

## 前置きとして

○様々な理由で働きながら学ぶ青年に対して教育の  
機会均等を保障するための場 = **定時制高校**

○働きながら学ぶこと※1※2  
= **働くことの意味や誇りを知る**  
= **実社会と結びつけて学ぶことができる**

※1 入学当初から働いている生徒は少ない。

※2 学年（年次）が進むにつれて働く生徒は多くなる。



# 定時制では . . . .

---

- 1 経済的・家庭的理由で働かなければならない生徒  
※該当生徒数は景気の状態に左右されやすい。
- 2 働きながら学びたい、自分にはそのことが合っていると希望して入学してくる生徒
- 3 一旦社会に出て、改めて学びたくなったり高卒資格が取りたくなって入学してくる生徒
- 4 全日制希望が叶わず、やむをえず定時制を選択する生徒
- 5 別の高校を退学し、定時制に再入学する生徒



## 傾向として・・・

---

- 基礎学力の不足
- 学習意欲が低い
- 基本的な生活習慣が出来ない
- 不本意入学

以上のことから、入学直後から学校を休む、授業展開が難しいなどの現象が表出する。



# 定時制教育は・・・

---


さまざまな課題を抱える生徒たちの、

今までの学校生活で失ったものを取り戻す場

||

やり直すための場

**※中学校不登校生徒が定時制高校入学を機に、不登校が解消されることは多い。**



## 定時制の良さを生かした展開を・・・

### ○生徒の自信回復につながる授業工夫

- ・これまでの学習でつまずいたことで、自信を無くし勉強嫌いになっている。

「分かる」という体験をさせられる展開を。

### ○コミュニケーションによる生徒の意識向上

- ・入学当初、生徒は教師を試している。

[5月初旬になると・・・]

A先生の授業では問題なく展開出来ているのに、

B先生の授業では授業が成立しにくい状況になっている。

そうになってしまう原因は??

**教科指導力不足？生徒指導力不足??それとも資質の問題???**



# 私を感じることとしては・・・

---

総合的人間力の不足ではないか・・・。

教師としての資質は最低限必要な条件である（仕事における）。

そのこと以上に人として備えるべき能力は最大限必要である（人生における）。

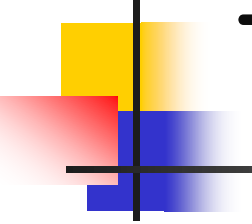
教員としての  
資質能力1

教員としての  
資質能力2

人としての能力

教員としての  
資質能力3





# コミュニケーションの質が 人生の質を作り出す

生徒との関わり方次第で、生徒の人生(夢・目標)を設定させることができる

- ・人の行動には意図がある(行動目的)
- ・人の行動を動かしているものは感情である
- ・人の心が気持ちを生み出し行動になる
- ・行動しているということはそこに行動する理由がある。

※上記4つは同じことを言っていますが、角度が違います。



# 傾聴

---

**相手の話**に耳を傾けて聞き上手になること。

[傾聴のパターンも個性がある]

- 人の話を聞きながら相手を受け入れること、理解することに集中する人
- 傾聴しながら、真面目な話も楽しく聞く人
- 傾聴しながら、相手の話に乗っかって反応しながら聞く人

# ペーシング

(話し方、身振りを合わせること) する

最初の状態 (信頼関係を築けていない時)

- ・ 警戒心、不信感を感じている  
(多くの場合)

ペーシングすることで

- ・ 話しやすい、何か自分に似ている、  
安心感があるなどの心理的变化が起きる。

信頼をしない理由がなくなる



# 必要なこととして...

---

- **人間性**
- 基本的な**信頼関係**
- **コミュニケーションの場作り**
- 相手の**話への傾聴**
- 相手を**思いやる行動**

**※コミュニケーションの目的に合った関わり方で変化が起きる。**

# 課題研究設定理由

## 学習能力の低い生徒が多い

- ・ 中学時代に不登校であった
- ・ 教師が嫌いだった
- ・ 人と関わるのが嫌い(苦手)であった

## 夢や目標を持たない（持てない）生徒が多い

- ・ どうせこの時代だから仕方がない
- ・ 夢や目標を持つ意味が分からない
- ・ どうにでもなるので気にしていない

# 1学期の実施内容(結果・課題・対応)

## 生徒との関係作り

### ○実践内容

- ・一人一人に声かけを行い、授業が円滑により良いものになるように心掛けた
- ・授業中であっても、砕けた話題を取り出し反応を確かめた(教師と生徒の壁は崩さない)

### ●結果

- ・授業中における生徒指導に対する反抗的な態度や言葉はなくなる。このことより、ある程度の関係は出来ていると感じた。

### ▲課題

- ・遅刻や欠席の多い(欠時数が多い)生徒がいることにより、その生徒達が授業に参加出来ていないので、関係を築く上で他生徒より難しい所があった。

### △対応策

- ・授業中だけの関係を重視してしまうといけないので、授業外にどれだけ生徒達と関わられるかで十分にカバー出来た。ちょっとした声かけでも十分に効果が表れてきた。

生徒自ら話を持ってくるようになる

# 意欲の向上と1学期の授業の取組みによる定期考査の素点への影響

## ○実践内容

授業時間で理解が出来ない生徒に対しては、積極的な補習を実施した。

理解力向上のため、毎時間確認テストを実施した。

## ●結果

1学期中間考査前より、確認テストの出来具合を生徒自身が把握出来ていることで、このままではテストで点が取れない、成績で欠点が付いてしまう、といった危機意識を持たせることが出来た。その為、補習には積極的に参加する生徒が増えてきた。このことで定期考査でも良い結果が表れた。

## ▲課題

補習等において、働きかけによって参加している生徒はまだ良いが、どうせ無理・・・と諦めている生徒に対し、考査の重要性はもとより、普段の授業中における関わり方を考え直さなければならないことに気がついた。性格的に内々に溜め込む生徒は、どんどん引っ張っていく必要があることが確認出来た。

## △対応策

性格による生徒の違いにより、理解度が低い生徒でも積極性では大きな違いが出てきている。この積極性が恥ずかしくて聞けないなど、とても勿体無い状況にしている生徒には、普段の何気ない会話から始め、先生と生徒の距離を先生から縮めていくことで、自分から聞くことが出来る→分からない事が分かるようになってくる→理解が出来て達成感を味わう→授業が楽しくなる→学校が楽しくなるというように、良い循環を生む起点になっていた。

# 2学期の実施内容(結果・課題・対応)

## 1学期の反省点から見える生徒のやる気と進路意識(アンケートから見える)変化

### ○実践内容

- 2学期の自分自身の目標設定を定めさせた。
- 自身の進路に関するアンケートを実施した。

### ●結果

1学期の反省点をしっかり挙げる事が出来ている生徒は、2学期の目標レベルを高く掲げることが出来ている。全体としては、慣れが出てきて気が緩んでいる様子になっていたが、要所要所で、授業を止め、全体に「この時期に崩れてしまいがちだが、崩れてしまったら進級が危なくなる」この時期の重要性について、何度も話した。その反面、目標設定を特になしとした生徒に関しては欠時数が着々と増えていってしまっていた

。たまに授業に出席し、「最近どうしとったん?」、「授業頑張ってるか?」と声をかけると、「大丈夫!」、「頑張る!」という答えが返ってはくるが続かなかった。



# アンケート(9月・11月・1月)実施分による生徒の意識変化

9月 実施分				11月 実施分				1月 実施分			
回収率(%) : 54.2				回収率(%) : 80.0				回収率(%) : 100.0			
1.	している 5名	普通 6名	していない 2名	1.	している 11名	普通 6名	していない 1名	1.	している 15名	普通 3名	していない 1名
2.	している 6名	求職中 5名	しない 2名	2.	している 12名	求職中 5名	しない 1名	2.	している 14名	求職中 5名	しない 0名
3.	進学 2名	就職 7名	未定 4名	3.	進学 4名	就職 9名	未定 5名	3.	進学 4名	就職 14名	未定 1名
4.	パソコン関連会社、公務員、工業系列の大学 大学			4.	パソコン関連会社、公務員、工業系列の大学 4年制大学、公務員			4.	パソコン関連会社、公務員、工業系列の大学 大学、今勤めている店、美容系専門学校、整備士が 取れる専門学校		
5.	4名中3名が夢や目標がないと回答			5.	5名中2名が夢や目標がないと回答			5.	1名中1名が夢や目標がないと回答		
6.	満足している 5名	満足していない 8名		6.	質問項目なし			6.	質問項目なし		
7.	質問項目なし			7.	質問項目なし			7.	満足している 8名	満足していない 11名	

## アンケートの項目

1. 学校生活の充実度
2. 現在の仕事の有無
3. 現在の進路意識
4. (3)の問の詳細
5. (3)の問で進路意識が「未定」の生徒に対する夢や目標の有無
6. 1学期の成績の満足度
7. 2学期の成績の満足度

# アンケートから見えてきたこと

一番問題視した部分は進路に興味が無く、夢や目標すらないと答えた生徒である。

このような生徒には、より一層の情報を投げかけていく。何気ない社会情勢(時事的な内容)を毎時間授業の始めに話をしてきたことにより、興味や関心が少しは高まってくれたのではと感じた。

生徒達は、進路といってもまだよく理解が出来ていなかった。夢や目標はあるけれど、そこにたどり着くためのプロセスが見い出せないままだった。資格1つ取ってみても、何のために必要な資格なのか、ただ持っとけば有利になる！という生徒もいたが、有利になるのは確かだが、その資格をどのように活かしていくつもりかと聞いたところ、分からないという言葉が返ってきた。

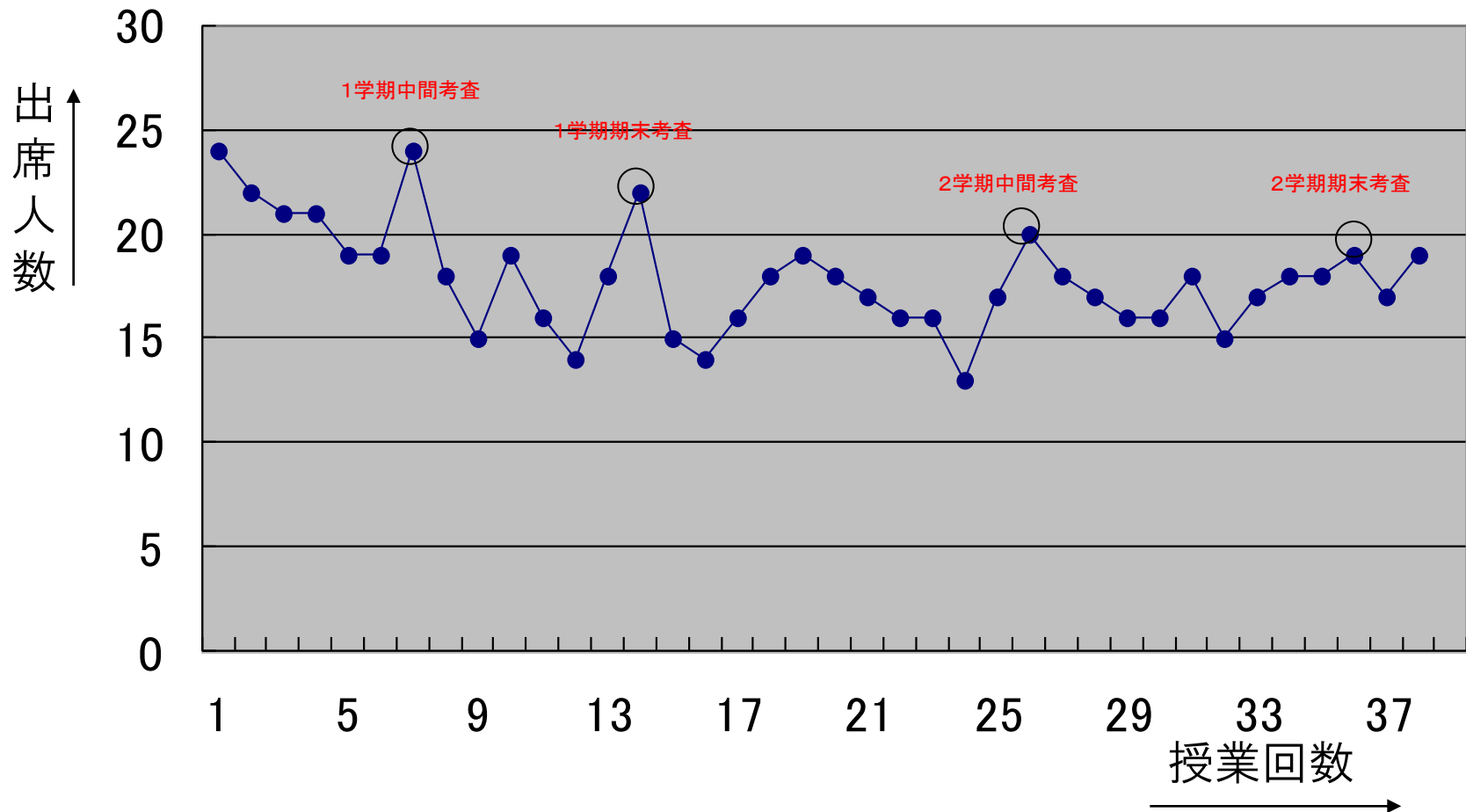
こちらから進学や就職に関する情報を提供すればするほど、生徒の意識を高めることが確認出来た。意識を高めるだけで終わらずに、どのようにすれば目標に達することが出来るかという所まで深く話をし、さらに意欲を高め、道しるべのきっかけになれば更に良いと感じた。

**情報提供が多い＝進路意識の変化が大きい  
(比例関係)**

# ある3修制科目における生徒の出席状況の推移

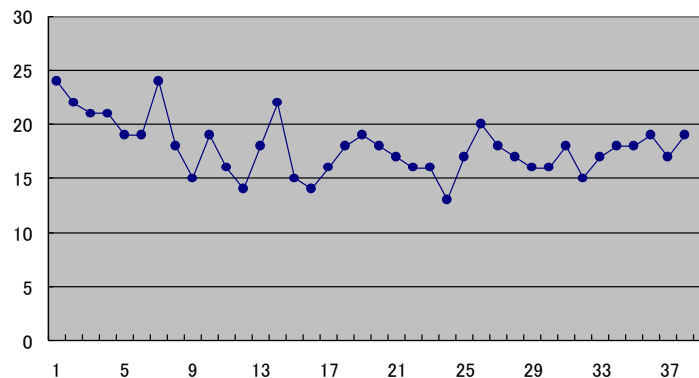
単位制科目であり3修制生徒が履修しているが、2学期に入ってから夏休みを終えて4修制へ切り替えた生徒や休学生徒が出ているため、全体数は減少してきている。

## 授業回数と出席生徒の推移



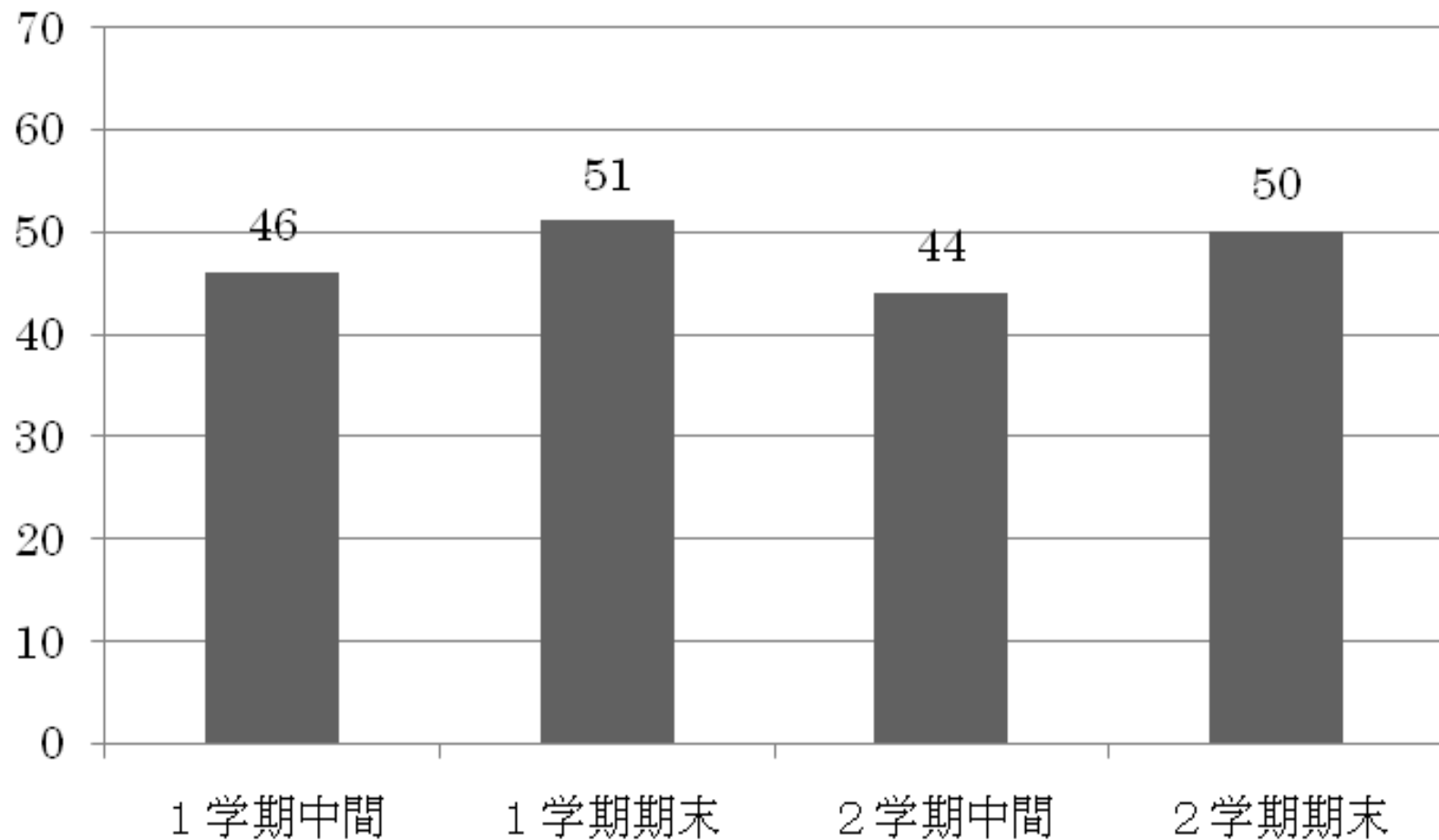
## 1学期から3学期(1月13日現在)までの出席状況から読み取れる変化について

1学期当初は、学校生活の始めもあり緊張感が漂って授業に出席している生徒ばかりであった。授業回数を重ねるごとに、**休む生徒が限られてきた**。欠時数切れによる未履修の生徒も3名(1月現在)出てしまい、これらの生徒に対しては私の姿勢が十分に伝えることが出来ていなかった部分が反省点であった。しかし、生徒たちは「**考査は受けなければならないもの**」という意識を持っていることが見て取れる。普段の授業で「どうせ分からんし」、「分からんからやらん」と言っていた生徒も考査はしっかり受けていた。そこには、考査が大事であることはもちろん、**生徒とのコミュニケーションが土台となっている**ように思う。この先生の授業はもう受けたくない、となれば授業には出てこない。ここでも、コミュニケーションの大切さを実感した。そして、退学者、休学者、未履修生徒を除く他の生徒達は、欠席することもほとんどなくなって、**ある程度の欠席者数の下げ止まり**が見れた。授業に出てきているのであれば、あとは授業の工夫しだい、関わり方次第でやる気にさせてしまえば学力の向上も見えてくるはずである。



# 定期考査の平均点の推移について

定期考査 平均点の変化

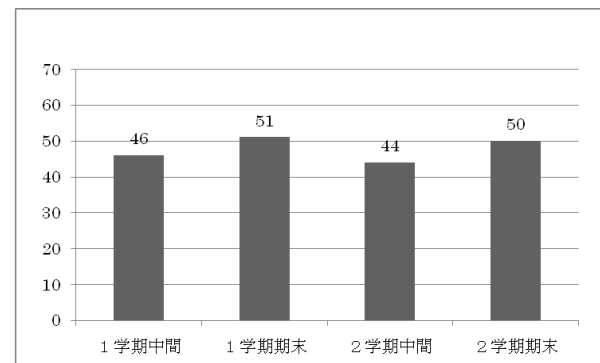


# 平均点の変化から読み取れる事

1学期中間考査、2学期中間考査はともに、各学期期末考査よりも平均点が低い傾向を示した。各学期始めの考査は、試験範囲が前の学期の期末考査を含んでいる部分があり、夏休みや冬休みのように長期休業を挟むと、内容を忘れてしまっていた。各学期始めの授業では、必ず復習を行った。

期末考査になると、生徒に聞けば「中間考査で点が悪かったから頑張る」という声が多く聞けた。

結果、生徒の意識の高さも影響して平均点が上がった。学習内容は、授業が進むにつれて難しくなってはいくものの、それに対して生徒たちもついてきてくれている様子であった。しかし、中にはやはり頑張っているのに結果が伴わない生徒がいるのが事実である。その生徒には、その生徒にあった学力の幅で「最低限ここは頑張って理解して自分のものにしような」と声をかけ、授業外でも個別指導することで評価に繋げるように取り組んだ。決して、考査の結果でやる気をなくすようなことにならないように、**考査後の授業では特に生徒一人一人に励ましの言葉を必ずかけた。**



# まとめ ①

- 対象学年を1年生に絞ったのは、入学して間もない生徒達にとってこの1年生の1年間を有意義に消化出来る、またその中で様々な事に対する意識の変化が+に働く(向く)ようにしてやれば2年生以降も大丈夫であるという自分自身の考えをもとに行った。限られた授業時間の中で最大限一人一人に関わることが出来る時間は単純計算1分もないだろう。その1分もない中で、自分自身の指導計画の中で、「今日はこの子とこの子にはこの質問をしてみよう」、「この子とあの子に討議させよう」と決めて授業に臨んでいた。コミュニケーションの効果は十分にあったと感じている。
- コミュニケーションの取り方については、生徒と教師の壁を崩すやり方ではいけない。崩さずに生徒と接し、信頼関係を築くのは今の子供達には難しい部分でもあるが、こちらが凛とした姿勢で、本当に生徒を想い、どうにかこの力を身に付けさせてやりたい気持ちも伝えてさえいれば、生徒はそれに応えてくれた。
- 定時制の生徒だから、中学生の時はこうだったからというような情報等により、先に先入観を持ってしまったら教科指導はもとより生徒指導も上手くいかない。それはその生徒にレッテルをはることになる。高校へ入学してくればどのような環境だったとしても、全員は同じスタートラインであることを十分に理解させることも大事である
- 教科担当と担任との連携も密にし、少しでも気になる点があればお互いが相談し合える教師間のコミュニケーションも、生徒とのコミュニケーションと同じぐらい大切であることが確認できた。

## ま と め ②

- 生徒は意外と社会情勢を知っていた。授業の始めに「今日はこのようなニュースがありました。それは・・・」と話すと、生徒達は「先生！それってこうなんやろ？」と聞いてくる生徒も多くいた。この部分におけるコミュニケーションも十分に意識の向上に+に働いていたと考える。
- 生徒達は思っていた以上に、内面は色々な事を考えている。そこに気付かないままでは、その生徒を伸ばすことが出来ない。その生徒の内面を出来るだけ自分からオープンにさせるコミュニケーションの取り方を今後模索しながら実践していきたい。

## 最後に・・・

生徒理解の難しさを感じた。生徒を理解するためのファーストステップは何なのかが見えてきたように思う。私自身のコミュニケーション能力を向上させ、教科指導や生徒指導が向上し、人としての能力向上にもつなげ、生徒の今後の人生のきっかけ作りを支援していきたい。



ご静聴ありがとうございました